

# 論説・原発周辺病院の医療職へ理解と支援を

市立八幡浜総合病院麻酔科

越智元郎

災害拠点病院であり、原子力災害拠点病院でもある市立八幡浜総合病院（伊方原子力発電所から直線距離11km）で働く筆者は、2025年9月10日付け地元紙の「原子力災害時、原発周辺病院で出勤意思を持つ職員は30%」という趣旨の記事<sup>1)</sup>に目を見張った。アンケートを実施した病院は島根原子力発電所から直線距離約9kmにある救命救急センター、災害拠点病院、原子力災害医療協力機関の松江赤十字病院（599床）であった。この病院で原子力災害時に出勤してくる職員が半数以下だとすれば、入院患者の治療やケアを満足に行うことは難しいだろう。

私が勤める病院でも、一定範囲の被ばくを許容し病院で働くという職員が半数以下とのデータ<sup>2)</sup>がある。第三者的な視点から赤十字職員や公務員としての自覚を問うことは易しいが、医療職をはじめとする病院職員や福祉施設の職員がエッセンシャルワーカーとして原子力災害時に役割を果たすためには、配偶者を含む家族の支援や社会の理解が不可欠であろう。

一方で、各地の原子力災害医療派遣チームの多くが行政との協定未締結のため活動を開始できる体制にないこと、現段階で災害派遣医療チーム（DMAT）の原子力災害時の活動が明確には規定されていないことなどは、原子力災害時の病院支援を難しくしている<sup>2)</sup>。早急に制度の整備をはかっていただきたい。

また、被ばくに関して職員や地域の理解をはぐくむことは今後の重要な課題である。例えば、当院の災害医療計画<sup>3)</sup>（事業継続計画（BCP）に改編中）において、原子力災害時の当院職員の活動限度として、放射線診療従事者等の線量限度（男性で100 mSv/5年 かつ50 mSv/年）を準用することを記載している。この100 mSv被ばくに関して、わが国においてがん死する人がどの位増えるのか（およそ30.0%から30.5%に増える<sup>4)</sup>という）、逆に喫煙・飲酒などの生活習慣によるがん発生の危険性はどの位の被ばくに相当するのか（受動喫煙は100 mSv、大量飲酒は500 mSv、喫煙は1000 mSv以上に相当するという<sup>4)</sup>）。このような知識があれば、原子力災害時の出勤を回避しようとする職員は少なくなるのではないか。

冒頭の記事の病院においては、災害時における赤十字社員の使命のことが取り沙汰されるであろう。当院においては自治体病院職員のあり方が問われる。妊娠中あるいは授乳中の職員などにまず、避難あるいは屋内退避させることは当然である。しかし、それ以外の大多数の職員においては、子どもの世話を配偶者や祖父母に依頼する、いわゆるママ友などの協力を事前に依頼しておくなどして、原子力災害時においてもできるだけ出勤できるよう準備することが望まれる。その意味で職員の家族や社会の理解と協力を切にお願いしたい。

## 参考文献

- 1) 共同通信：原発事故時、出勤前向き職員3割 島根の退避先病院、医療継続課題  
<https://news.yahoo.co.jp/articles/841d69cfff2ca9104fe1da7dd99dffe0a8fcaecf?>
- 2) 越智元郎：原子力発電所近傍医療機関における放射線災害医療体制の現状と課題、第13回日本放射線事故・災害医学会シンポジウム—これでいいのか放射線災害医療体制、2025年9月27日、広島 <https://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/25/j927.pdf>
- 3) 市立八幡浜総合病院災害医療計画（2021年1月版）、第5部 原子力災害医療、p.190  
<https://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/ec14-5.pdf>
- 4) 環境省：放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（2024年度版）、第3章 放射線による健康影響、p.100 <https://www.env.go.jp/content/000301964.pdf>
- 5) 内部被ばくを考える市民研究会：内部被ばくと健康被害  
<https://www.radiationexposuresociety.com/archives/9403>  
 (ウェブ資料はいずれも2025年11月5日に確認した)

放射線の線量 (ミリシーベルト)	がんの 相対リスク※	生活習慣因子
1,000 ~ 2,000	1.8 1.6 1.6	喫煙者 大量飲酒 (毎日3合以上)
500 ~ 1,000	1.4 1.4	大量飲酒 (毎日2合以上)
200 ~ 500	1.22 1.29 1.19 1.15 ~ 1.19 1.11 ~ 1.15	肥満 (BMI≥30) やせ (BMI<19) 運動不足 高塩分食品
100 ~ 200	1.08 1.06 1.02 ~ 1.03	野菜不足 受動喫煙 (非喫煙女性)
100 未満	検出困難	

出典：国立がん研究センターウェブサイト

図1 がんのリスク (放射線と生活習慣)<sup>5)</sup>